

第1回 学校運営協議会

令和6年4月26日（金）

午後1時15分～

浜松市立中川小学校 会議室

進行：教 務



【4月2日の桜】



【入学式】



【給食初日】



【参観会】

浜松市立中川小学校

次 第

進行（教務）

- 1 はじめの言葉
- 2 校長あいさつ
- 3 新規委員任命書交付
- 4 自己紹介
- 5 学校運営協議会について
- 6 会長・副会長・議長の選出
- 7 熟議
 - (1) 令和6年度学校運営の基本方針について（校長）
 - (2) いじめ防止等のための基本方針について（教頭）
 - (3) 夢育やらまいか事業に対する意見書について（教頭）
- 8 連絡
 - 次回の開催日時
 - ・第2回学校運営協議会 7月 5日（金）
 - ・第3回学校運営協議会 11月 1日（金）
 - ・第4回学校運営協議会 1月 30日（木）
- 9 終わりの言葉

R6 学校運営協議会について

浜松市立中川小学校

1 目的（浜松市学校運営協議会規則より）

児童生徒及び地域の現状並びに学校の課題を捉え、特色ある学校づくりを推進するとともに、未来創造への人づくり及び市民協働による人づくりに資することを理念として、浜松市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の対象学校の運営への参画を促進し、もって当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図ることを目的とする。

2 協議会の役割

以下の事項について協議を行う

- (1) 対象学校の運営に関すること。
- (2) 対象学校の運営への必要な支援に関すること。
- (3) 児童生徒の健全育成に関すること。

※ 協議の結果について、保護者及び地域住民等の理解を促し、主体的な参画並びに支援及び協力を得られるようにするため、保護者及び地域住民等に協議の結果に関する情報を積極的に提供するよう努める。

3 組織

◇ 学校運営協議会委員（うち会長1名、副会長1名を選出）

No	氏名	肩書
1	山岡 照彦	民生委員・児童委員
2	高柳 弘行	R4自治会長
3	内山 有香	主任児童委員
4	松井 孝悦	R5自治会長
5	三原 弘明	R6自治会長

No	氏名	肩書
6	伊藤 浩之	R5PTA会長
7	伊東 拓郎	R6PTA会長
8	内山 南	R6PTA副会長
9	谷川 美帆	学校支援コーディネーター

◇ 学校担当者（1名）

学校側の窓口として、連絡・調整 及び、補助

◇ 学校支援コーディネーター（1名）

※1日4時間を基本（午前8時00分から午後4時30分）年間360時間

- (1) 配置校における支援のニーズの把握に関すること。
- (2) 配置校における支援に活用できる人材情報等の集約に関すること。
- (3) 配置校を支援する個人又は団体との連絡及び調整に関すること。
- (4) 配置校における支援に必要な人材情報等の提供及び実施に関すること。
- (5) 配置校における支援に関する地域等への情報提供に関すること。

◇ CSディレクター（1名）1日4時間を基本 年間400時間

- (1) 協議会の会議運営に関すること
- (2) 協議会委員との連絡・調整に関すること
- (3) 通学区域の保護者・地域住民からの意見収集に関すること
- (4) 他校及び市外先進地の取組等の情報収集に関すること
- (5) 協議会の協議内容についての情報発信に関すること
- (6) その他、協議会の運営に関することで、委員会又はディレクターを設置する学校の校長が必要と認めること

4 学校運営協議会の予定

- 第1回 4月26日（金）13:15～
- 第2回 7月 5日（金）13:15～ ※5校時に授業参観をする場合があります。
- 第3回 11月 1日（金）13:15～
- 第4回 1月30日（木）13:15～ ※5校時に授業参観をする場合があります。

令和6年度 浜松市立中川小学校グランドデザイン

はままつの人づくり 目指す子供の姿

- 自分らしさを大切にする子供
- 夢と希望を持ち続ける子供
- これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供

細江中学校区で目指す子供の姿
夢と希望をもち、力強く歩み続ける子

未来創造への人づくり

【めざす学校の姿】 ○子供が安心して楽しく学び合う学校
○教職員が持ち味を発揮し合い、尊敬し合い、高め合う学校
○家庭・地域から信頼される学校

学校教育目標

「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

なかよく思いやりのある子（徳）

- ◎三つの宝（挨拶・掃除・歌声）を輝かせる活動
- いじめを生まない「寄り添う」土壌づくり
- 心を育てる特別の教科道徳の充実
- 地域に学ぶ体験活動

かんがえを深め学び続ける子（知）

- ◎主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
- 学習の基礎・基本の定着
- ICTを活用した授業の充実
- 地域の資源や人材を生かした学習

わたしもあなたも健康な子（体）

- ◎主体的な安全・健康・運動習慣づくり
- 自分の体を知る保健活動と日常的な体力づくり
- 防災・防犯・交通安全の理解
- 食への感謝を育む体験活動

がんばりがきき、ねばり強い子（知）（徳）（体）

- ◎主体性・ねばり強さ・調整力を磨く各種活動（学習、日常）
- 価値ある経験につながる行事の充実

合言葉：「自分から」かわり、「自分の力で」学び続ける

中小キャリア教育

課題対応能力
挑戦する力

人間関係形成・社会形成能力
かかわる力

キャリアプランニング能力
つなげる力

自己理解・自己管理能力
見つめる力

愛情を注ぎ、認め、成長を支える家庭

参観会・教育相談
学校ボランティア・PTA活動

コミュニティスクールの充実

学校運営協議会（熟議）
学校支援活動（中小応援団）

温かく見守り、声を掛け、学びを支える地域

中川の子どもを育てる会・民生委員・児童委員連絡会・地域防災連絡会

市民協働の人づくり

(1) 学校で一番大切なもの＝職員

- ・健康、私生活の充実が心の余裕を生み、子供たちに優しく接することができる。

(2) 学校の使命＝子供に生きる力を身に付けさせること

- ・「時間」という限られた資源の中で、子供の成長を最大化する工夫。
～働き方改革とは、やらなくても良いことはやめ、やるべきことを重点的にやる。
～「努力と根性、遅くまでいる先生が良い先生」という意識からの脱却～意識改革

(3) 子供は、保護者から預かっている

- ・保護者の思いや願い・・・どの子も大切な子供＝学校でも大切にしてほしい。
- ・保護者へのリスペクト・・・小学生になるまで苦労しながら育ててきたことへの敬意。
～保護者は尊重すべきだが、どちらが上でも下でもない。

(4) 学校の中をできるだけ見える化し、協働の意識を醸成する

- ～ブログ・たよりで（子供の様子とともに）「学校が頑張っている姿」を示す。

(5) 安心・安全な環境（学級）

- ・いじめを許さない頼もしい担任＝年齢・経験よりも熱意。
- ・年度当初に集団の目標と「ルール」を示し、守らなければ叱ることを宣言。
→どんなクラスにしたいか（ゴールの明示：集団の目標）
→どんな子供になってほしいか＝許せない行為（ルール）
※人を傷つけること、自分の成長をいい加減に考えること（怠けること）
- ・悪い子はいないが「悪い行い」は誰しもがする。
～「悪い行いをしたら叱られる」のは当然。叱られ方も教える。
※叱られないように縮こまらない。叱られながら覚えていく。
～対人的トラブルは双方の保護者に連絡。

(6) 自己肯定感の醸成

- 「自信」をつけさせるためには、まず体験させること
 - ・「褒めるに値する成果か？」～不十分と思っている時に褒めない。
～「少しだけ頑張っただけで上手くいった」時に身につくのは自信でなく慢心。
※適切な目標設定を支援する。
- 「失敗させない」ことは、体験させないことと同じ
 - ～教師の我慢が成果を生む。
～手を入れすぎず、子供自身がやり遂げた満足感。
※「頑張ったけど失敗した」のもよくあること。次の成功に向け振り返らせる。

(7) 強い組織

- ・組織決定に「自分の考えを盛り込みたい」という思い＝参画意識。
～意図も分からずに指示通り動く＝指示待ちの子のロールモデル。
～ただ、組織として同じ方向を向いて進んでいく。各々のやり方は違っていい。
- ・それぞれの強みを生かし、弱みをカバーし合う。
- ・子供も同僚も上司も上手く使う＝「自分だけが忙しい」のはやり方次第で解消する。

(8) 報告・相談・連絡

- ・悪い出来事ほど、素早い報告・素早い対応。
～炎上してからではなく「念のため・保険をかけるために」報告を。
- ・報告は「素早さ・簡潔さ」～まず結論、その後概要を。
- ・相談は、自分の考えを持って相談。「丸投げ」はしない。
- ・保護者からの問い合わせは、素早く対応。
～人は待たされるのが嫌い。回答に時間がかかる場合は、見通しだけでも連絡。

(様式1)

令和6年4月26日

浜松市立中川小学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 伊東 拓郎 様

浜松市立中川小学校運営協議会
会長 山岡 照彦

夢育やらまいか事業に対する意見書(案)

令和6年4月26日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

記

1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

- ① 5年生の「米作り活動」は、米作りを通して地域の特徴や人とのかわり、日本の食文化についても学べるため継続し、充実させるべきである。
⇒水田をお借りし、地域の米作りに詳しい方を講師としてお招きし、米作りの活動を教えていただく。

② 「いのちの授業」を実施し、心の教育の推進を図る。
⇒講師をお招きし、胎児の様子や実際に妊婦体験をして、自分の命の尊さやすばらしさを実感する。

